

---

# MSA 変更サービス：移転計画 ガイドライン

---

2021 年 12 月  
バージョン 2.0

レジストリオペレータ（RO）は、次のガイドラインに沿って、現在のレジストリサービスプロバイダ（RSP）から提案された RSP へとサービスを移転する計画を策定する必要があります。注：

- 「現在の RSP」は、サービスの移転元となる RSP を指します。
- 「提案された RSP」は、サービスの移転先となる RSP を指します。

ご質問がある場合には、アカウントマネージャーにお問い合わせいただくか、[命名サービスポータル（NSp）](#) から一般問い合わせケースを送信してください。

目次	1
1. 一般要件	3
2. IANA アップデート	3
2.1 権威ネームサーバーについての IANA の技術的要件	3
3. ロールバック	3
4. 監視	4
5. 例外	4
6. 現在の RSP によるサービスの廃止	4
7. データエスクロー	4
8. 月次報告	4
9. 立ち上げ情報のリクエスト（ONBIR）	5
10. 別紙 A に含まれるレジストリサービス	5
11. 国際化ドメイン名（IDN）	5
12. 検索可能な WHOIS	5
13. DNS サービス	6
14. 登録データ ディレクトリ サービス（RDDS）	6

---

15. 共有レジストリシステム (SRS)	7
15.1 データベースのインポート :	7
15.2 ROID (リポジトリオブジェクト識別子)	7
15.3 識別子 (ID)	7
15.4 連絡先	7
15.5 ドメイン	7
15.6 ホスト	8
15.7 DNS セキュリティ拡張 (DNSSE)	8
15.8 拡張プロビジョニングプロトコル (EPP)	8
15.9 レジストラ	8
16. 統一早期凍結 (URS) システム	9
17. 商標クリアリングハウス (TMCH)	9

---

## 1. 一般要件

移転計画は、次の条件を満たす必要があります。

- 実行される手順の詳細を含んでいること。
- 移転計画の各手順を実行する RSP を特定していること。
- 計画を続行する前に完了しなければならないブロックステップを含むこと。

機密情報（TSIG キーなど）は、現在の RSP と提案された RSP との間でやりとりすることが可能です。機密情報を伝達する場合は、非否認とプライバシーのためのセキュリティメカニズムを説明します。

## 2. IANA アップデート

移転計画には、次のような IANA（Internet Assigned Numbers Authority）情報を更新する場合に、いつ誰がこれを行うかを記載する必要があります。

- スポンサー組織
- 契約
- ネームサーバー
- 委任署名者（DS）レコード

移転計画は、IANA の更新が即時に実行されず、ブロックステップとなる可能性があることを考慮する必要があります。RO がすべてのネームサーバーを削除し、新しいセットをルートに追加する場合、IANA は RO に対して変更の正当性を示すよう要求することがあります。

### 2.1 権威ネームサーバーについての IANA の技術的要件

移転計画は、権威ネームサーバーについての IANA の技術的要件

（<https://www.iana.org/help/nameserver-requirements>）に準拠する必要があります。IANA に正当性を示した場合、次の要件が免除される場合があります。

- ネットワークの多様性
- 権威ネームサービス間の一貫性 - シリアル番号
- 一致する DNSKEY

## 3. ロールバック

レジストリ移転プロセスの何らかの部分を計画に従って進めることができない場合には、緊急時対応策を提供します。

---

## 4. 監視

レジストリ移転プロセス中にさまざまなサービスを監視するためのプロセスおよびシステムを説明します。

## 5. 例外

- 潜在的な例外のリストと取るべき手順について説明します。
- ロールバックを実行する可能性のある例外、および移転後に処理可能な例外を特定します。
- 移転計画には、潜在的な例外に関するレジストラとのコミュニケーションについての記述を含める必要があります。

## 6. 現在の RSP によるサービスの廃止

移転計画では、現在の RSP によるサービスの廃止について考慮されている必要があります。提案された RSP は、サービスが廃止されシャットダウンされたことの確認を現在の RSP から取得する必要があります。

## 7. データエスクロー

移転計画では、現在の RSP がデータエスクロー委託を提案された RSP に移転する方法を説明する必要があります。

- 該当する場合、以前のデータエスクロー委託は提案されたデータエスクローエージェントに転送する必要があります。データエスクローエージェントが同じである場合、データエスクローエージェントが委託を一方のアカウントから他方のアカウントに移転することを、計画に指定する必要があります。
- 提案された RSP とそのデータエスクローエージェントが、RSP の移転後直ちにデータエスクローのレポートと通知を ICANN に送ることを、移転計画に含めます。

## 8. 月次報告

- 特定の月に、現在の RSP と提案された RSP の両方でトランザクションが発生する場合は、提案された RSP が月次レポートの部分的な情報を組み込む方法を説明します。
- 移転プロセスに基づき、レポート内のフィールドの値に対して実行する手順を説明します。たとえば、すべてのドメイン名の猶予期間（AGP）を消去するため、移転に先立つ 6 日間は新規登録はできません。

## 9. 立ち上げ情報のリクエスト（ONBIR）

移転プロセスの一環として、提案された RSP は、ゾーンファイルアクセス（ZFA）、集約型ゾーンデータサービス（CZDS）、一括登録データアクセス（BRDA）、および早期差止統一（URS）の要件を引き続き満たすために、新しい ONBIR 情報を ICANN に提供する必要があります。提案された RSP は、新しい ONBIR 情報を適用するタイミングについて ICANN 組織と合意し、この予測される期間を移転計画に含める必要があります。

## 10. 別紙 A に含まれるレジストリサービス

現在の RSP が提供するレジストリサービスが段階的に廃止される場合、レジストラントへの影響を最小限に抑えるための段階的廃止計画を提供します。**重要**：レジストリサービスを別紙 A から削除するには、レジストリサービス評価方針（RSEP）を要求する必要があります。承認された場合、RSEP 要求によってレジストリ契約が修正される場合があります。詳細については、[RSEP プロセスのウェブページ](#)のページを参照してください。

- 移転計画には、提案された RSP が提供するレジストリサービスを記載します。
- 別紙 A に含まれるレジストリサービスを現在の RSP から提案された RSP に移転する方法を説明します。

## 11. 国際化ドメイン名（IDN）

- 現在の RSP と提案された RSP によるサポートされる IDN 言語/スクリプトおよび IDN テーブルの違いを特定します。**重要**：IDN サービスリクエストは、レジストリ契約の付録 A に記載されている IDN の言語/スクリプトを変更するために必要です。現在の RSP と提案された RSP でサポートされる IDN 言語/スクリプトが異なる場合に、これは適用されます。
- RSP によるバリエーションの処理と同じ IDN 言語/スクリプトについてサポートされるコードポイントの違いを特定します。たとえば、以下を含める場合があります。「提案された RSP のスペイン語の IDN テーブルは、現在の RSP でサポートされるアキュート付きの小文字 a（例、á、U+00E1）のコードポイントをサポートしません」

## 12. 検索可能な WHOIS

現在の RSP および提案された RSP が検索可能な WHOIS を提供する場合は、必要に応じてサービス間でユーザーを移行するためのメカニズムを説明します。

## 13. DNS サービス

DNS および DNSSEC サービスを現在の RSP から提案された RSP に移転する方法を説明します。

- DNS サービスの毎月のサービスレベル要件（SLR）は、停止時間が 0 分であることを考慮します。
- DNSSEC の信頼の連鎖は、常に確保する必要があります。RSP は、RFC 6781 に定められたベストプラクティスに従う必要があります。
- 現在の RSP または提案された RSP が一定期間にゾーンファイルを連続して転送する場合は、ゾーン転送に使用される安全なメカニズム（TSIG など）を説明します。
- RSP によって使用されるアルゴリズムが異なる場合は、移転計画に関する考慮事項を提供します。
- NSEC から NSEC3 への TLD の移転、またはその逆の移転の場合は、移転計画に関する考慮事項を提供します。
- DNSSEC キーとネームサーバーの移転と更新、ルートゾーンと最大または最小ゾーン生存時間（TTL）の更新に関するタイムライン図を提供します。タイムライン図には、使用されたゾーンファイルの送信元（例、提案された RSP または現在の RSP）を含めます。タイムラインには、以下の内容を含める必要があります。
  - 各手順のルートの名サーバーセットおよび委任署名者（DS）リソースレコード（RR）。
  - 現在の RSP と提案された RSP のネームサーバーの名サーバーセットとキーセット。
  - ネームサーバーのホスト名と IP アドレス。
- 現在の RSP によって生成された最後のゾーンファイルが、提案された RSP によって生成された最初のゾーンファイルと一致することを確認するメカニズムを説明します。

## 14. 登録データ ディレクトリ サービス（RDDS）

RDDS サービスを現在の RSP から提案された RSP に移転する方法を以下の内容を含めて説明します。

- DNS サービスの毎月の SLR は、停止時間が 864 分であることを考慮します。
- RDDS サービスの移転が SLR に違反しないことを確実にするために使用するメカニズムを説明します。たとえば、「提案された RSP と現在の RSP でサービスが実行される一方で、whois.nic.<tld> エントリはキャッシュから期限切れになります。whois.nic.<tld> の TTL は移転前に減少します」と記述します。
- サービスの移転中に RDDS データベースが 2 つの RSP 間で一貫していることを確認するために使用するメカニズムを説明します。

---

## 15. 共有レジストリシステム (SRS)

SRS サービスを現在の RSP から提案された RSP に移転する方法を説明します。

### 15.1 データベースのインポート :

- インポートするデータを検証するために使用されるプロセスを説明します。
- 現在の RSP と提案された RSP の間で RDDS データベースとゾーンファイルが一貫していることを確認するために使用するプロセスを説明します。

### 15.2 ROID (リポジトリオブジェクト識別子)

- さまざまなオブジェクトの ROID が引き続き同じものとなるかどうかを説明します。ROID が変更される場合、提案された RSP は変更をレジストラに通知する必要があります。
- 同じタイプのオブジェクトについて ROID の重複が見つかった場合に実行する手順を説明します。
- オブジェクトの ROID の変更をレジストラに通知する方法を説明します。

### 15.3 識別子 (ID)

- さまざまなオブジェクトの識別子が引き続き同じものとなるかどうかを説明します。拡張プロビジョニングプロトコル (EPP) は同じオブジェクトタイプについて ID と ROID をサポートしています。ID が変更される場合、提案された RSP は変更をレジストラに通知します。
- 同じタイプのオブジェクトについて識別子の重複が見つかった場合にどのようなことが起こるか説明します。
- レジストラには、オブジェクトの ID の変更が通知されます。

### 15.4 連絡先

- 以下のサポートについて不一致がある場合の手順を説明します。
  - RSP 間における連絡先の転送
  - RSP 間における連絡先の公開機能
- 現在の RSP のデータベースのコピーにリンクされた連絡先オブジェクトが見つからない場合に実行する手順を説明します。

### 15.5 ドメイン

- 以下について不一致がある場合の手順を説明します。
  - 現在の RSP と提案された RSP の間でサポートされる猶予期間。
  - 現在の RSP と提案された RSP の間で異なる猶予期間の長さ。

- 移転の一部としてドメイン名のステータスの変更を説明します。たとえば、提案された RSP はサーバステータスを削除します。
- 提案された RSP のビジネスルールに基づいてドメイン名がインポートされない場合の手順を説明します。

## 15.6 ホスト

- RSP 間におけるホストの転送のサポートで不一致がある場合の手順を説明します。
- オブジェクトとしての管理ホストから属性としてのホストへの移転、またはその逆の移転の場合の手順を説明します。注：ホスト管理のメカニズムが変更された場合は、レジストラに通知する必要があります。
- インポートされたホストが、RSP によって管理されるネームスペースに応じてグルーレコードになる可能性がある場合に、その特別な処理について説明します。
- 現在の RSP のデータベースのコピーにリンクされたホストオブジェクトが見つからない場合に実行する手順を説明します。
- 現在の RSP のデータベースのコピーにオブジェクトの重複が見つかった場合に実行する手順を説明します。

## 15.7 DNS セキュリティ拡張 (DNSSE)

提案された RSP によって要求される DNSSEC 情報を現在の RSP が取得していない場合に実行する手順を説明します。たとえば、現在の RSP が DS（委任署名者）インターフェイスを使用しており、提案された RSP が KeyData インターフェイスを必要とする場合は、そのことを移転計画に記述します。

## 15.8 拡張プロビジョニングプロトコル (EPP)

- RSP による EPP サービスの移転が RO の SLR に違反しないことを確実にするために使用するメカニズムを説明します。
- 現在の RSP と提案された RSP の間でサポートされる EPP 拡張子の不一致がある場合に実行する手順を説明します。レジストラには、EPP 拡張子の相違について通知する必要があります。
- authInfo 情報について実行する手順を説明します。たとえば、新しい authInfo がランダムな生成される場合は、そのことを移転計画に記述します。

## 15.9 レジストラ

- インポートするドメイン名のスポンサーレジストラが提案された RSP によって認定されていない場合に実行する手順を説明します。
- 現在の RSP と提案された RSP の間でレジストラに関する情報の不一致がある場合に実行する手順を説明します。



---

## 16. 統一早期凍結（URS）システム

URS のロック/サスペンションでドメイン名について実行する手順を説明します。

## 17. 商標クリアリングハウス（TMCH）

移転前に解決されなかったドメイン名の適用について実行する手順を説明します。